



テーマ展 「戦争と有田」



戦地から有田の家族に宛てた手紙

今年には第二次世界大戦が終了して70年という節目の年です。ただ、この年月の経過によって実際に戦争を経験した人々の存在がなくなりつつあり、その方々によって実体験を語っていただく機会も減り、戦争というものがどのようなものだったかを書物や映像でしか触れることが出来なくなってきました。

「悪い平和もよい戦争もない」という言葉があります。平和産業であった有田焼業界でも国策によって否応なく焼き物で兵器を作ったり、一般町民もさまざまな形で戦争に加担せざるを得なかった時代があったことを、今に生きる我々や次世代を担う子ども達に再認識していただくことを目的に、今回、8月1日(土)～8月31日(月)までテーマ展「戦争と有田」を開催しました。

ただ、この時代は有田焼400年の歴史上、意図的に記憶を消し去った時代でもありました。それは戦後になって進駐軍が町に来るといので、戦争に関わった事、例えば軍関係の文書や兵器などの製品は焼却するか割って埋めるようにという命が下された結果、今ではその当時を語ることが出来る人もほとんどいなくなってしまいました。

今回は、焼き物で作られた兵器やボタン、コンロ、水筒、陶貨などの代用品のほかに、高台内に陰刻あるいは染付などで「有〇〇」(〇の中に数字の番号を入れたもの)という文字が標示され、俗に「統制番号」

と称されたものを展示しています。正確には産地を示す「組合記号」と各製造者を示す「工場番号」を組み合わせたもので、それらの製品は長年、戦時中に於ける各生産地の資料や伝世品などを調査研究されている萩谷茂行氏によれば、昭和15年(1940)8月頃から同21年(1946)頃まで製品に標示されていたもので、日本陶磁器工業組合連合会(略して日陶連)の定款に基づく公定価格品であることを示していることがわかっています。どのように番号が付けられたかという、各生産地の工業組合が定め、それぞれの生産者に割り振ったとされ、有田焼産地でも、現在確認されているのは「有21」が藤巻製陶所(この工場には捺印する道具が保存されていました)、「有69」が今泉陶園で使用されていた番号であることがわかっています。

ほかに「有69」と窯元名と思われる「文泉」の銘が明記された染付碗が存在しますが、これは昭和17年以降に実施された企業整備の折に、今泉陶園と文泉と称する窯元が合同し、同じ「有69」を使用していたものと推測されます。但し、文泉という窯元の詳細は不明です。

また、出征した父親から子ども達に宛てたはがきや、出征を祝った旗、戦地での無事を祈った千人針のほか、昭和16年(1941)4月1日から官庁や公共団体の鉄、銅製品の特別回収が実施され、8月30日には金属回収令が制定公布されて工場、事業所はもとより一般家庭までもこれら物資の譲渡、供出運動が強力に推し進められたいわゆるくろがね動員と呼ばれた時の「金属品供出控え」なども展示しました。

ふたたびの道を辿ることがないことを願いながら、でも、生きづらい時代にもたくましく生きて有田の人々がいたことも忘れてはならないと思っています。

(尾崎 葉子)



「今泉陶園 有69」
の銘が入った碗
(今右衛門窯所蔵)

皿 季刊 山

No.107

秋

2015

有田町歴史民俗資料館・館報

れきみん応援団活動報告 平成27年4月～8月



平成25年度より資料館・美術館・文化財課の事業に対し、人的支援を行っている「ありた れきみん 応援団」ですが、発足から3年目となり、今では欠くことのできない戦力として活躍いただいています。

皆さんの活動の内容を、ここで少し紹介したいと思います。

①れきみん学習会

毎月1回、第一月曜日に「れきみん学習会」を行っています。応援団は団体見学や展示解説を希望される来館者に対し、学芸員が不在の際の展示解説を行っています。そのために、有田の歴史をもっと知りたい、学びたいとのことで、昨年からは学芸員による講義の形式で行っています。

今年度も、4月には「有田に炭鉱があった?」、5月には「歴代の深川栄左衛門」、6月は「石場とは? 石場騒動とは?」、7月は「有田焼創業300年・350年に何があった?」8月は「戦争と有田」を題材に行いました。今後も、毎月開催予定となっています。

②展示解説

資料館の展示解説をお願いしていますが、今回は7月2日(木)にJA粕屋町老人友の会一行の案内をお願いしました。



館内で展示解説を行うれきみん応援団員

③各種ボランティア講師・案内

・公民館事業 有田まなびキッズ

6月20日(土)、公民館講座の有田まなびキッズの子ども達に対して、「有田内山伝統的建造物群」について解説してもらいました。

・社協事業 親子で有田の町を知ろう!

過日、有田町社会福祉協議会より当館に「親子探訪ツアー」を計画しているが、資料館の見学及びツアーのルートなどを含めて、ぜひ講師としてれきみん応援

団の協力を頂けないかという相談を受け、れきみん応援団員に諮ったところ、ご快諾いただきました。

そこで、れきみん学習会で培った知識に、さらに自主的な調査結果を加えて、午前中は「資料館東館を中心とした焼き物の学習」を、午後から「資料館西館の資料を中心とした縄文時代の有田の学習」という「親子で有田の町を知ろう!」ツアーが7月25日(土)に行われました。

当日は、交流のある九州歴史資料館(福岡県小郡市)のボランティアの方たちも応援に駆けつけ、充実した一日を過ごしました。特に午後からの講座では、資料館西館に収蔵されている旧西有田町の坂ノ下遺跡などから採集・出土した土器や石器を実際に見たり、九州歴史資料館ボランティアが製作した石斧などの複製品を手にして、古の有田に思いを馳せることが出来たようです。社会福祉協議会を始め、ツアーに参加された保護者からも、大変感激した旨のお言葉を頂きました。



遺物と複製品から当時の生活の説明を受ける親子
(有田町社会福祉協議会提供)

・山口知事のさーいこう!の案内

7月13日(月)、山口祥義佐賀県知事が有田にいらっしゃいました。これは、知事が県内の「本物の地域資源や新しい佐賀をつくる人、団体」を訪問し、その実情や想い、ニーズをより深く理解することで、「人を大切に、世界に誇れる佐賀づくり」の実現に活かすことを目的とした、知事広聴事業です。その団体の一つとしてれきみん応援団が参加しました。

④資料館関連行事への協力

そのほかにも、テーマ展の展示替え作業や歴史の川ざらい、夏休み模型教室の講師、資料館周辺の草刈・清掃など、たくさんの支援を頂きました。

このように、さまざまご協力を頂いているれきみん応援団です。9月以降も企画展や見学依頼等、引き続き活動をしていきたいと考えています。

応援団の活動にご興味のある方は、ぜひ資料館にお問合せ下さい。

(永井 都)

平成 27 年度企画展 「天狗谷窯跡発掘 50 年」

来年創業 400 年を迎える有田ですが、今から 50 年前、創業 350 年の前年の昭和 40 年（1965）に、新たな有田の焼き物の歴史研究が始まる出来事がありました。

有田町白川にある、天狗谷窯跡の発掘調査です。これは、丁度時期を迎えていた創業 350 年事業の一環とした位置づけという意味もありましたが、有田で初めて考古学的手法によって行われた発掘調査で、旧有田町の文化財関係の諮問機関（現在の文化財保護審議会）設立のきっかけとなった、有田の文化財保護にとって非常に意義深い発掘調査でした。

そこで、今年是天狗谷窯跡発掘 50 年を記念して企画展を行いたいと思います。企画展に先立って、天狗谷窯跡について少し紹介したいと思います。

天狗谷窯跡発掘に至る経緯

『有田天狗谷古窯』（昭和 47 年 7 月発行）によると久保英雄氏（当時の有田町文化財保護委員会副委員長）の記述に、昭和 38 年「カメラ芸術」の企画で土門拳氏一行を案内した際、残されていた天狗谷窯跡の窯壁が破壊されており、今後の調査の手掛りをなくしてしまった、これはその後も続いていた陶片収集のための濫掘である、と述べています。

つまり、今でも行われている「盗掘」の横行により、当時唯一存在が確認されていた窯壁が破壊されてしまったのです。

事態を受け久保氏はこれ以上の破壊を防ぐため、肥前陶芸作家協会の代表者らと共に、天狗谷窯跡の保護・保存の嘆願を有田町長・有田町議会に提出します。町と町議会は、天狗谷窯跡を史跡として指定することを内定し、その諮問機関として有田町教育委員会の中に有田町文化財保護委員会を設けました。委員会の答申を受けて、天狗谷窯跡は昭和 40 年 3 月 10 日付けで、有田町の史跡第 1 号として有田町教育委員会より指定されました。

ただ、この時の指定は将来発掘による窯体の発見を期待しつつも、李参平ゆかりの窯としての物原を重視して指定しています。

さて、史跡指定も行い次に物原の発掘準備を進めていたところに、一つの事件が起こりました。史跡地付近に製陶工場が建設されることとなり、その鍬入れ式で偶然窯体の一部が発見されたのです。そのため町教育委員会・町文化財保護委員会は発見現場の検分を行い、町に当該地の発掘調査の進言を行いました。当時

の青木類次町長は「その重要性を認め、350 年祭事業の一環として発掘調査に踏み出すことにした」と述べています。

町文化財保護委員会は、調査の技術的指導方を要請し、こうして、東京大学教授（当時）三上次男氏を調査団長、駒澤大学非常勤講師（当時）倉田芳郎氏を調査主任とする調査団が組織されたのです。しかし、調査に当たって三上団長は「李参平の窯」という先入観を排除すること、と厳命されたそうです。



発掘調査の様子（山澤家提供）

天狗谷窯跡の発掘調査の概略

天狗谷窯跡発掘調査は、昭和 40 年 10 月 29 日から始まった一次調査を皮切りに、計 6 回行われました。当初から 6 回の計画ではなく、予想に反する事態が次々に起ったためのことでした。

いざ調査を始めてみると、まず一基だと思われていた窯体が重複し何基もあったこと、さらに、これぞ天狗谷創始の窯と思われていた A 窯の下層にもう一つ窯体が埋まっていたことなど、次々に新事実が発見されることになります。

特筆すべきこととして、第三次調査の前に、かねてより確認されていた白川墓地の李参平のものとする墓碑に刻まれた内容と一致する竜泉寺の過去帳が発見され、墓碑は昭和 42 年有田町の史跡に、過去帳は昭和 46 年に西有田町の重要文化財に指定されています。

天狗谷の発掘調査は調査団の思いと裏腹に「李参平の窯」の調査として町民の熱がますます高まってきたようです。しかし、昭和 42 年 7 月 5 日から始まった第三次調査は、数日で終わりを迎えます。俗に「42 水」と呼ばれている大水害が発生したためでした。

このように波乱に満ちた天狗谷窯跡の発掘調査ですが、調査団、文化財保護委員、町担当者はその後も様々な苦労や新事実と直面しています。

そのときの記録や、調査団長である三上先生の遺品、発掘調査に参加した人の声などを企画展でご紹介したいと思います。どうぞ、ご来館下さい。（永井 都）

会期：平成 27 年 11 月 21 日（土）

～平成 28 年 1 月 11 日（月）

会場：有田町歴史民俗資料館（東館）

会期中のイベント：

11 月 21～22 日 夜間開館・紅葉ライトアップ
大晦日特別開館（予定）

歴史の川ざらい〜ベンジャラを 探そう!! 開催しました

平成 27 年 8 月 1 日 (土)、夏らしい陽気の中で第 4 回「歴史の川ざらい ベンジャラを探そう!!」を行いました。前週まで雨が続き、川の増水を心配していましたが、一週間ほど晴れが続いたお陰で当日の天候も水位も上々。去年は雨の中で行いましたが、今年は逆に熱中症の心配をしつつ行うこととなりました。

この事業は、有田を流れる川に捨てられたり流れ込んだりした陶片を採集し、学芸員に鑑定してもらうという催しです。今まではいきなり現地へ行ってすぐ陶片拾いをしていたのですが、それでは分かりにくいだろうということで、今回から観光協会 2 階に場所をお借りして、前回の川ざらいで拾った陶片を持ち込み、どんなものを拾えばよいか、古いものを見分けるコツを伝授してから、採集地の白川川に向かい、陶片拾いを行うことにしました。

今回の参加者は未就学児から中学生までの 15 名。前々回の川ざらいで、360 年前の天狗谷窯跡の陶片を発見したりピーターの少年は、「今年も天狗谷 (の

陶片) を見つけてやる!」と意欲まんまんで臨んでいました。また、付き添いで来られた保護者の皆さんも、「古いお宝を発見するぞ!」と意気込んでいらっしゃいました。

これらの陶片は貴重な文化財ですので、持ち帰ることは出来ませんが、発見者として子ども達の名前を記録し、後日資料館でパネル展示します。有田の歴史を陶片を通じて感じ取ってもらいたいと思っています。

今回の川ざらいも、安全管理や事前の草払い作業、終了後のハマ投げ遊びなどに、れきみん応援団にご協力を頂きました。改めて御礼申し上げます。



古い陶片の見つけ方の説明を熱心に聞く子ども達

第 15 回 町屋模型作り教室 開催しました

今年で 15 回目を迎えた「町屋模型教室」を 8 月 17・18 日の 2 日間にわたって行いました。今年はなんと 15 名の参加者を迎え、有田町役場東出張所 2 階にて開催しました。毎年人気の講座ではあるのですが、今年は募集開始からわずか数日で定員の 10 名に達してしまい、急いで枠を拡げたものの、それすらあっという間に埋まってしまいました。今回お断りした方々には誠に申し訳ございません。町内小学校 5 年生、6 年生が対象ですので、5 年生の方はまた来年ぜひ申し込んで欲しいと思います。

町屋の模型は「有田内山伝統的建造物群保存地区」の中で、伝統的建造物に選定されている物件を元にしていきます。そこで、まず保存地区まで歩いて実物の建物を見学しながら担当者から説明を受けました。

その後模型の制作にかかります。まず基本となる町屋 1 棟を一緒に作り、その後は 10 種類の中から好きなものを選んで作ります。2 日目は、1 日目で作った模型を並べて、色を塗ったり、道路、庭やトンバイ塀、樹木を作ったりして、子ども達の独特の「町並み」を完成させていきます。

今年は 1 日目はれきみん応援団員が模型作りの先生に、2 日目からはインターンシップで参加した有田工業高等学校 2 年生の円田晟力君と野口万紘さんに

も子ども達の先生になってもらいました。高校生もいつもの教わる立場から教える立場になって、最初は緊張しているようでしたが、すぐに「先生」らしく子ども達の質問に答えていました。

模型教室を通じて、ふるさとの町並みを考え、将来の町を担っていく一員として、歴史を学んで欲しいと思っています。



有工生と一緒に完成品を持って集合写真

季刊『皿山』

通巻 107 号 (平成 27 年 9 月 1 日)
編集・発行 有田町歴史民俗資料館

〒 844-0001 佐賀県西松浦郡有田町泉山 1 丁目 4-1
☎ 0955-43-2678 FAX0955-43-4185
URL : <http://rekishi.town.arita.saga.jp>